

わだの丘

学校だより 第516号 (令和4年3月24日発行)
舞鶴市立和田中学校



<http://wada.maizuru.ed.jp>



3月の朝日に映える五老スカイタワー

令和3年度を終えるにあたって

お彼岸が過ぎ、日に日に温かさを感じるようになり、いよいよ春到来となりました。保護者、地域の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育推進に格別のご理解とご支援をいただき、感謝いたしております。

さて、3月15日に、第75回卒業証書授与式を挙行いたしました。感染予防のため、人数制限および時間短縮で実施いたしました。コロナ禍の制限された中学校生活の中でも学習に前向きに取り組む、自分たちの良さを発揮し、学校行事などを成功に導いてくれた3年生でもあり、本当に立派な卒業式となりました。式の前日には、感染予防対策を取りながらではありましたが、卒業式の当日に参加できない1・2年生が3年生を送る会を開いてくれて3年生のメッセージや合唱「群青」を聴くことができました。1・2年生は、卒業生が刻んだ和田中学校の良き伝統を今後もしっかり引き継いで欲しいと思います。

さて、3学期には1年生が取り組む数学の振り返りの学習を行う「チャレンジタイム」に、参加させてもらったことがあります。1年生は大変一生懸命課題に取り組んでいました。しかし、数学がとても苦手だという生徒もいます。ひとつわからなくなったら、その知識を使つての次の学習も難しくなり、どんどんわからなくなる。どこでつまづいてしまうのだろうと考えてきましたが、小学校であれば、例えば分数の計算だと思います。通分が必要な足し算・引き算、また分数の割り算では割る数を分母と分子をひっくり返してかけますが、なぜひっくり返すの？と大人でも説明が難しい内容です。また、中学校に入れば正負の数の計算があり、なぜマイナスとマイナスをかけたらプラスになるのだろう・・・そして文字の計算が出てきて、アルファベットがなぜ数字と同じような扱いになるのかも理解できないまま、3年生になれば $\sqrt{\quad}$ （ルート）のついた数字が登場します。

これらはすべてつながっているし、嫌いなと思う、もうどんどん嫌いになります。式のきまりや図形の性質を覚えることも必要ですが、なぜそう決まっているのか？なぜそのような性質が言えるのか？ということを考えれば、より記憶に残り楽しく数学が勉強できると思います。数学の計算というものは規則正しく数式の「きまり」が決まっていなくて機能しない学問です。たとえば、マイナスとマイナスをかけたらプラスになる。そうしないと計算の理屈が成り立たなくなるからです。こう定義しないと計算上困ることになる。数学の計算はそんなものです。ただ、生徒たちが理解するために説明をしてあげなければなりません。これが数学の教師の大きな悩みです。どうしたら分かってくれるだろうかを常に悩んでいます。主体的な学びが求められる次世代型の学習に取り組むとしたら、「どう説明ができるか」を生徒自らが考え、説明方法を見つけられれば、興味が持て、数学はすごく面白い教科になると思います。自身もそうして数学を好きになりました。その教科を好きになることが学力向上にとっても重要です。

生徒会が企画してくれた朝の挨拶運動の取組を3月中旬から部活動のみんなで交代しながら正門で行ってくれています。大変良い取組だと思います。1・2年生は3年生が卒業し、いよいよ次年度進級するにあたり、やり残していることもあると思います。1年生は苦手な教科でもあきらめずに取り組み、学習の力を少しでも高めて、新しい学年に上がってもらいたいですし、2年生は人間関係でのトラブルを改善していくためにも「思いやりの心」を大切に、自身の生活をもう一度見直して最高学年として力を高めてほしいと思います。

次年度については、どの学年においても生徒数は40名以下となり、現段階においては3年生1学級、2年生1学級、1年生1学級、特別支援学級2学級でスタートする予定です。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、保護者・地域の皆様方には、この1年間、本校教育活動の推進に際し、様々な場面において大変お世話になり誠にありがとうございました。この3月には信じがたい突然の出来事が起こり、国際情勢が緊迫する中ではありますが、子どもたちの安心・安全を今後も確保していかなければなりません。また、コロナ禍であっても子どもたちとともに、和田中学校を「落ち着いた中にも活気のある学校」、そして「生徒の夢や希望がかなう学校」づくりに尽力してまいりたいと思います。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげ、令和3年度を終えるにあたってのご挨拶とさせていただきます。

校長 荒賀 洋
教職員一同